

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第204集

野馬窪遺跡群

野馬窪遺跡 V

長野県佐久市猿久保野馬窪遺跡 第5次調査

2013, 3

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ長野支店
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ長野支店が行う、移動通信無線基地局（CV佐久猿久保RK）建設工事に伴う野馬窪遺跡Vの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ長野支店
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 野馬窪遺跡V（SNKV） 佐久市猿久保167-5
5. 調査期間及び面積 試掘調査 平成22年8月3日～8月11日・25日 面積 15㎡
発掘調査 平成23年9月4日～平成23年10月4日
整理調査 平成23年9月21日～平成24年1月20日
平成24年6月5日～平成24年8月17日
調査面積 215㎡（開発面積185㎡、立木伐採・抜根範囲108㎡）
6. 本遺跡の調査は林・佐々木、報告書作成は林・佐々木が行った。
7. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址(H)土坑(D)ピット(P)である。
2. 挿図の縮尺は遺構1/80・1/60、遺物1/4・1/3・1/1である。挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水糸標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたが、間隔は4m×4mに設定した。
7. 挿図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

- 第1節 立地と経過……………1
- 第2節 調査組織……………1
- 第3節 調査日誌……………3

第Ⅱ章 遺構と遺物

- 第1節 竪穴住居址……………3
- 第2節 土坑……………5
- 第3節 その他……………8



第1図 野馬窪遺跡V位置図（1：50,000）

第I章 発掘調査の経緯

1 経過と周辺遺跡

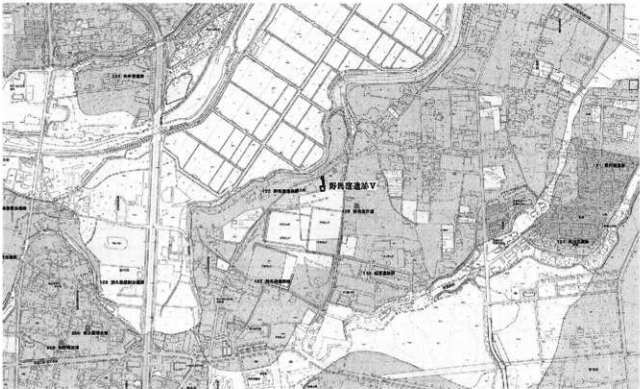
野馬窪遺跡群は、西流する湯川左岸の浅間第一軽石流に形成された台地上にある。標高は、700m前後を測り、調査対象地点から南方に緩やかに傾斜している。

野馬窪遺跡群内では、4次の発掘調査と平成13・14・17年度の試掘調査で弥生時代・平安時代・中世の集落が検出されている。

今回、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ長野支店により移动通信用無線基地局が建設されることになり、平成22年8月3日～平成22年8月11・25日に試掘調査を行った。その結果、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が出土し、竪穴住居址1棟も検出された。保護協議の結果、記録保存調査を行うことになった。

平成23年4月18日付けで発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を実施した。

調査対象地は、鋼管柱基礎工事範囲・維持管理道路及び工事に係る立木伐採・抜根範囲である。

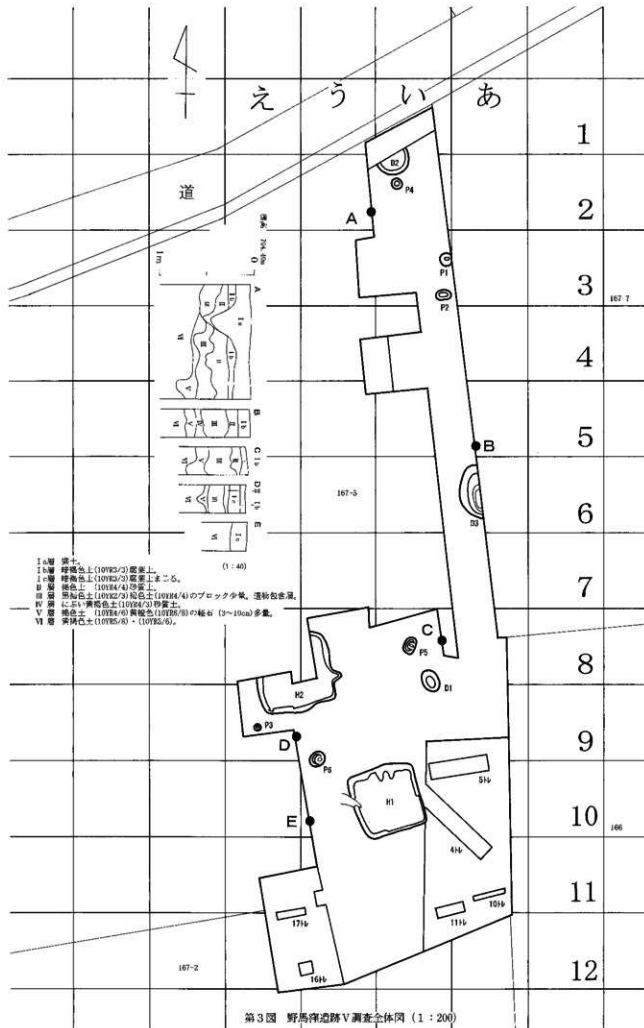


第2図 野馬窪遺跡V周辺遺跡 (1:10,000)

2 調査組織

平成23・24年度

| | | | |
|-------|-----------|------------------------------------|-------|
| 調査主体者 | 佐久市教育委員会 | 教育長 | 上屋 盛夫 |
| 事務局 | 社会教育部長 | 伊藤 明弘 | |
| | 文化財課長 | 吉澤 隆 | |
| | 文化財係長 | 三石 宗一 | |
| | 文化財調査係専門員 | 林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田卓也 富沢 一明 | |
| | | 上原 学 | |
| | 文化財調査係 | 並木 節子 神津 和明(23年10月～) 井出 泰章(～23年9月) | |



第3図 野馬深道路V調査全体図(1:200)

調査体制

調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
調査員 赤羽根充江 磯貝律子 市川光吉 岩松茂年 神津和子 神津千春 小林節子
小林千勝 清水律子 副島充子 田中ひさ子 中山清美 広瀬梨恵子 柳沢孝子

3 調査日誌

平成23年8月22日 調査仮設事務所・調査員等車両置き場使用許可を佐久市土地開発公社に申請。
8月26日 佐久市土地開発公社より使用許可される。
8月29日 重機等賃貸借業務契約締結。30日基準点基準線設定業務委託契約締結。
8月31日 調査対象範囲の最終確認(大明株式会社担当者、文化財課担当者)。
9月3日 仮設事務所・トイレ設置。
9月5日 重機により表土削平、併行して遺構プラン確認。
9月7日 基準点基準線設定(測量杭打設)。
9月9日 H1・H2号住居址掘り下げ始め。
9月12日～27日 遺構掘り下げ、随時記録図面作成・写真撮影。
9月21日 台風15号に備える。
9月29日 全体写真、器材撤収。
9月29・30日埋戻し作業。10月4日埋戻し細部補足作業。
10月6日 長野県教育委員会に発掘調査終了報告書を提出する。
佐久警察署に埋蔵文化財発見届けを提出する。
9月21日～12月2日 出土遺物・記録の整理作業。
平成24年6月5日～8月17日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。
11月5日 報告書刊行をもって調査終了。

第Ⅱ章 遺構と遺物

検出遺構・遺物の概要

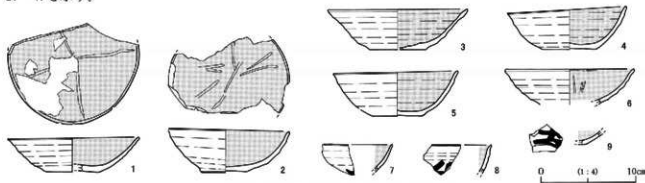
遺構 竪穴住居址2軒(平安時代)土坑3基(平安時代1基他)ピット6基

遺物 縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、平安時代石器(土師器・灰釉陶器)、鉄器、石器

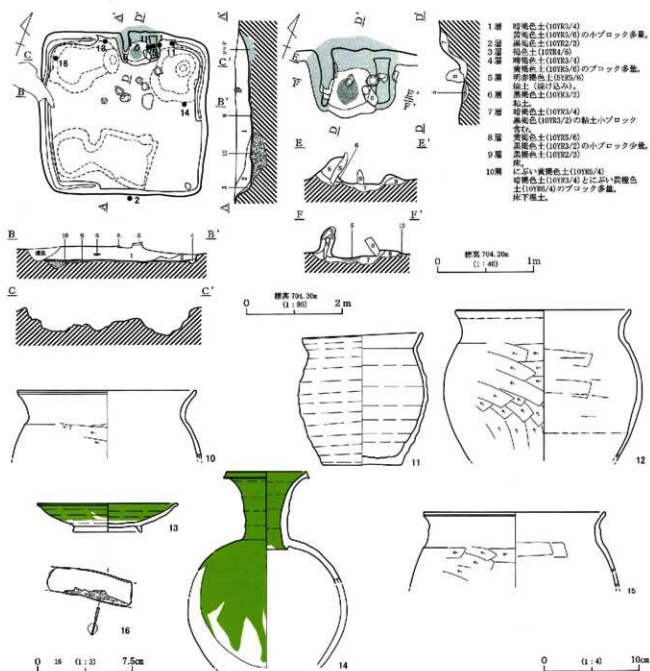
1 竪穴住居址

1) H1号住居址

い・う-10Grにあり、北壁3.3m・東壁3.1m・南壁3.2m・西壁3.1m、壁高は30cm、主軸方位はN-17°-Wを示す。



第4図 H1号住居址出土遺物実測図(1)



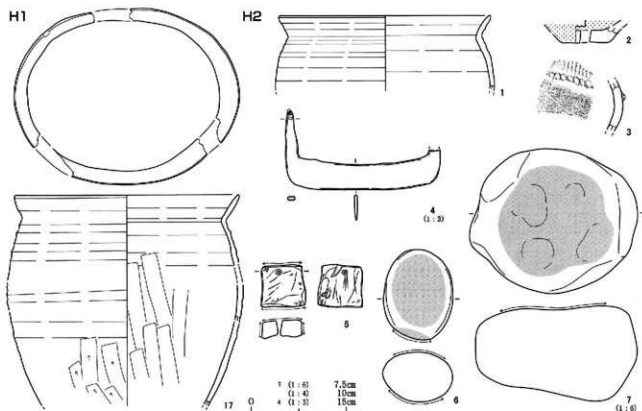
第5図 H 1号住居址実測図および出土遺物実測図(2)

カマドは北壁の中央に粘土と安山岩により構築されている。袖石の下端は地山を浅く掘り置かれている。床面・掘方から明確な柱穴は、確認できなかった。

壁溝が東・南壁の一部を除き認められた。床面は堅く締まりほぼ平坦である。掘方は壁寄りが深い。

遺物は、土師器・灰釉陶器・石器がある。須恵器は坏小片が1点みられた。1～5は土師器坏で～4が内面黒色処理される。6～9は土師器坏か碗で内面黒色処理され、7～9体部外面に文字判明しない墨書が認められる。10・11・12・15・17は土師器甕、12・15は頸部「コ」の字「武蔵甕」、11・17は土師器クロコ甕である。13は灰釉陶器皿、14は灰釉陶器長頸壺でいづれも釉は潰け掛けである。16は鎌とみられ、刃部に木質が残る。

本址は9世紀後半に位置づけられる。



第6図 H1号住居址出土遺物実測図(3)

第7図 H2号住居址出土遺物実測図(1)

2) H2号住居址

う・え-8・9Grにあり約半分が調査区域外にある。検出北壁0.6m・東壁3.3m・南壁3.7m・検出西壁1.94m壁高は41cm主軸方位N-79°-Eを示す。

カマドは東壁中央に粘土と砂岩・安山岩により構築されている。面取された砂岩をが材材の袖部は、袖石下地の地山を掘り置かれている。カマド東脇床面の長さ60cmの安山岩も構築材であろう。

径50cm深さ15cmのP1が掘方から、検出された。壁溝が東・南壁一部を除き認められた。床面は堅く締まりほぼ平坦である。カマド左袖脇床面から16の鎌が出土した。

遺物は、土師器・灰軸陶器・鉄器・石器がある。須恵器は坏・甕小片が1点みられた。

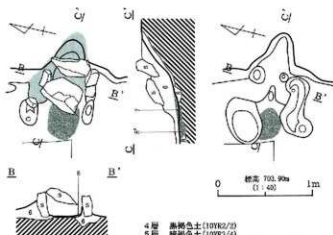
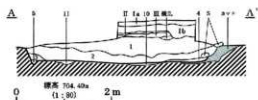
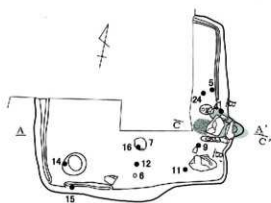
8~12は内面黒色処理される土師器坏、13~18が土師器碗、14~18が内面黒色処理される、19~23は土師器坏か碗で19~22が内面黒色処理される。12・15・19は体部外面に文字判明しない墨書が認められる。24は灰軸陶器皿か碗、1・25~27は土師器ロクロ甕、25は外面ヘラケズリ内面にロクロ調整がうかがえる。4は大きめの字引金具、装着部に木質が残る。5は一孔持つ流紋岩の砥石6面に使用痕がみえる。6は安山岩の磨石。7は安山岩の台石。2の内外面赤彩され一孔の有孔鉢と、3の縄文後期深鉢は混入である。

本址は9世紀後半に位置づけられる。

2 土坑

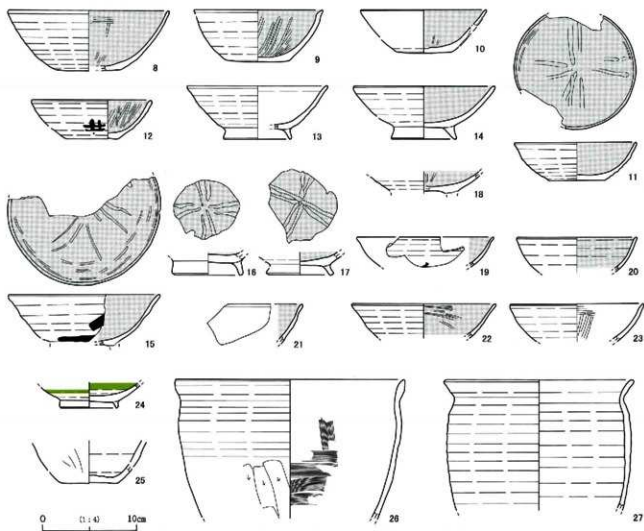
1) D1号土坑

い-8・9Grにあり、長軸長116cm短軸長98cm壁高38cm、平面楕円形、断面は逆梯形。長軸方位はN-14°-Wを示す。覆土は地山の明黄褐色土ブロックを含む人為的埋土であった。



- 1層 黒褐色土(10YR2/3)
暗褐色土(10YR3/4)・暗褐色土
(10YR2/4)ブロック含む。
- 2層 褐色土(10YR4/4)暗褐色土
(10YR2/3)小ブロック含む。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)

- 4層 黒褐色土(10YR2/3)
- 5層 暗褐色土(10YR3/4)
- 6層 褐色土(10YR4/4)粘土・泥土ブロック含む。
- 7層 明赤褐色土(5YR5/4)焼土。
- 8層 暗赤褐色土(5YR5/4)磁器が埋蔵した。
- 9層 暗褐色土(10YR2/3)粘土。
- 10層 暗褐色土(10YR2/3)暗褐色土(10YR3/3)の
粘土・黄褐色土(10YR6/6)のブロック含む。
- 11層 褐色土(10YR4/4)暗褐色土(10YR3/3)の
小ブロック含む。



第8図 II 2号住居址実測図および出土遺物実測図(2)

遺物は、1・2の土師器環と土師器環・碗小片2点が出土した。1・2とも内面黒色処理される。1は体部外面に「子」の墨書と刻書が認められる。2の体部外面には「子」の墨書が認められる。

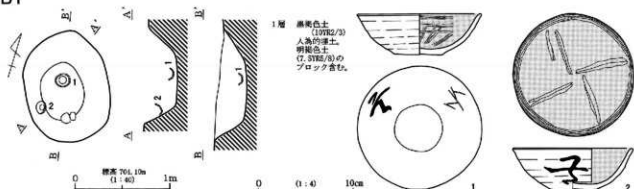
本址は9世紀後半に位置づけられる。

2) D2号土坑

い-2 Grにあり北半分が調査区域外にある。直径166cmの円形とみられ、壁高112cm、断面は逆梯形を呈する。覆土2・3層は地山ののぶい褐色土・褐色土を含む人為的埋土であった。平安時代の遺物包含層である全体層序Ⅲ層を掘り込んでいる。

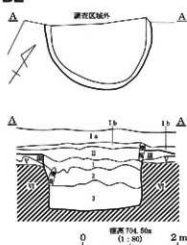
出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

D1



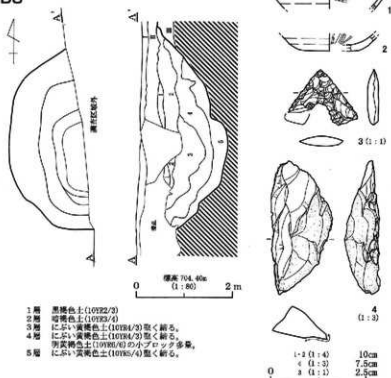
第9図 D1号土坑実測図および出土遺物実測図

D2



- 1層 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土(10YR2/3)
 褐色土(10YR4/6)のブロック多量。人為的埋土。
 2層 褐色土(10YR4/6) 地山(V型)の褐色土(10YR4/6)土。
 のぶい褐色土(10YR2/3)の小ブロック多量。人為的埋土。
 3層 のぶい黄褐色土(7.5YR5/3) 地山(7.5YR5/3)土。
 人為的埋土。

D3



第10図 D2号・D3号土坑実測図および出土遺物実測図

3) D3号土坑

あ-6Grにあり東半分が調査区域外にある。検出部南北長290cm、壁高110cm、断面はテラスを有する逆梯形を呈する。覆土3~5層は、堅く締まる。平安時代の遺物包含層である全体層序Ⅲ層を掘り込んでいる。

遺物は、1・2の土師器杯、黒曜石の石鏃3、安山岩の二次加工ある剥片4が出土した。2は底部回転糸切りがみえる。

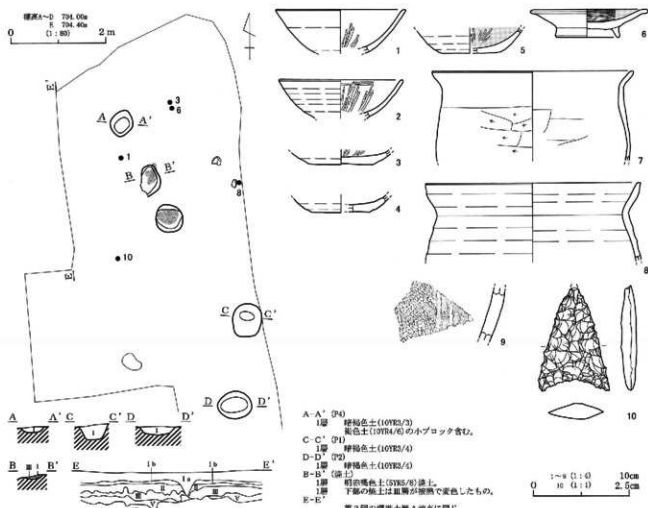
本址の時期は、平安時代以降であろう。

3 その他

ピットが6基検出された。P1は平面円形で長径70cm短径60cm深さ33cm、P2は平面楕円形で長径74cm短径56cm深さ18cm、P3は円形で長径40cm短径36cm深さ41cm柱痕14cmが確認された。P4は長径57cm短径46cm深さ14cmの円形、P5は長径80cm短径58cm深さ63cmの楕円形テラスを有する。P6は長径84cm短径78cm深さ27cmの円形でテラスを有する。P2から土師器3片が出土した。

い-2Grに北東から南西に傾斜する僅かな窪地があり、全体層序A地点周囲でⅢ層の堆積(層厚20~30cm)がみられた。Ⅲ層最下部に焼上の堆積とⅢ層が被熱で赤色に変化した範囲が2カ所確認された。付近に住居址床面などは、確認されなかった。

い-2GrⅢ層から土師器杯(3~5)・皿(6)坏か碗(1・2)、土師器甕(7・8)、縄文土器(9)、黒曜石の石鏃(10)が出土した。土師器は、H1・2号住居址と同一時期の9世紀後半に比定される



第11図 P1・P2・P4・焼上分布範囲実測図および遺構外出土遺物実測図



1 野馬窪遺跡群遠景（北東より、立鶴山・ハッ岳が遠望できる）



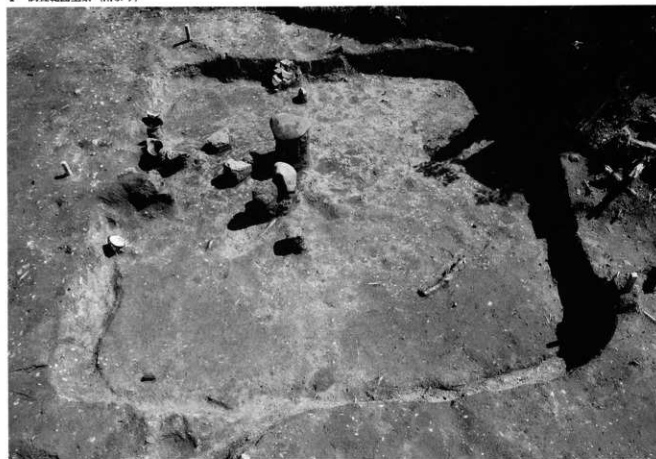
2 野馬窪遺跡群遠景（北方より、台地上中央が野馬窪遺跡V。手前に湯川が西流する）



3 野馬窪遺跡V遠景（南西より、調査地点は前方林の中）



1 調査範囲全景 (南より)



2 H1号住居址 (南より)



1 H1号住居跡掘り方(北より)



2 H1号住居跡(南より)



3 H1号住居跡カマド(南より)



4 H1号住居跡カマド掘り方(北より)



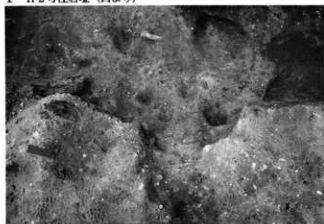
5 H2号住居跡(南より)



1 H2号住居址(西より)



2 H2号住居址カマド(西より)



3 H2号住居址カマド掘り方(東より)



4 H2号住居址カマド周辺遺物出土状態(西より)



5 D1号土坑(北より)



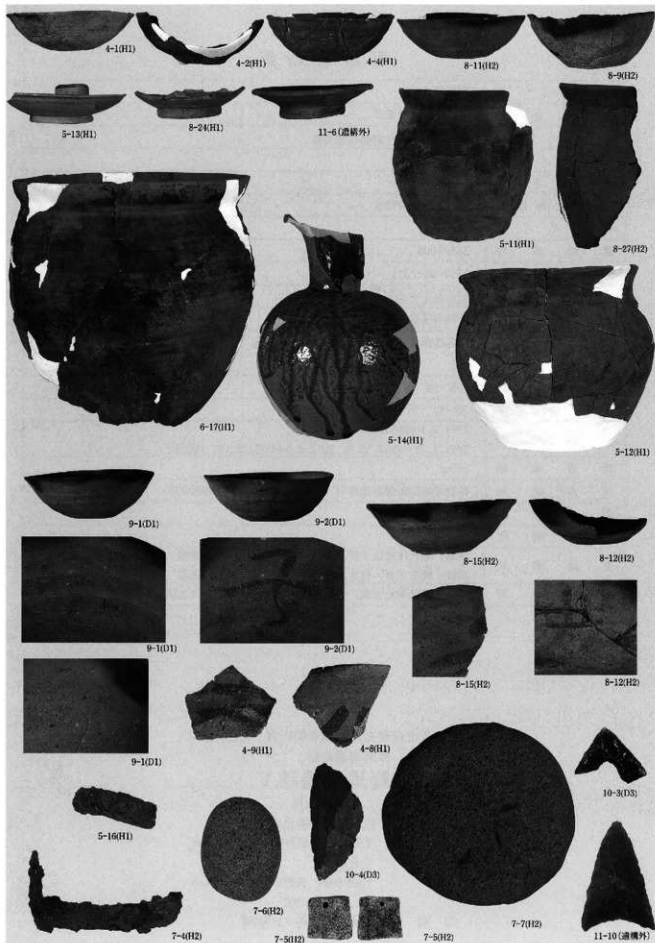
6 D2号土坑(南より)



7 D2号土坑(南より)



8 D3号土坑(北より)



出土遺物

報告書抄録

| | |
|---------|--|
| 書名 | 野馬窪遺跡V |
| ふりがな | のまくぼいせきご |
| シリーズ名 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第204集 |
| 編著者名 | 林 幸彦 |
| 編集・発行機関 | 佐久市教育委員会 |
| 発行年月日 | 2013.3.31 |
| 郵便番号 | 385-0006 |
| 電話番号 | 0267-68-7321 |
| 住所 | 長野県佐久市志賀5953 |
| 遺跡名 | 野馬窪遺跡V(SNKV) |
| 遺跡所在地 | 佐久市猿久保167-5 |
| 遺跡番号 | 122 |
| 経度 | 138°-29'-21" (世界測地系) |
| 緯度 | 36°-15'-28" (世界測地系) |
| 調査期間 | 2011.9.4~2011.10.4 (現場) 2011.9.21~2012.12.2、2012.6.5~2012.8.17 (整理) |
| 調査面積 | 215㎡ |
| 調査原因 | 移動通信用無線基地局(CV佐久猿久保 RK)建設工事 |
| 種別 | 集落址 |
| 主な時代 | 平安時代 |
| 遺跡概要 | 遺構 竪穴住居址2軒(平安) 土坑3基 ビット6個 遺物 縄文土器 弥生土器 土師器 灰釉陶器 鉄器 石器 |
| 特記事項 | 野馬窪遺跡群北東端、湯川を望む断崖上の平安時代集落址一端が確認された。 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第204集

野馬窪遺跡群

野馬窪遺跡V

2013年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

☎ 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所